

① 学習指導案

プログラム	No. 11 「まちづくり景観プランナーになろう！」
単元名 (全75時間)	めざせ一石七鳥！あーとに残るドリームウォールアート
学習のねらい	日枝のまちの魅力や人の温かさをウォールアートで伝える活動を通して、まちに対する思いや願い、まちが抱える課題、まちの人同士のつながりを大切にしている思いなどを知り、自分たちも地域の一員として育ってきた日枝のまちのよさを広め、まちがさらに活性化していくために自分たちにできることを考え、行動しようとする。
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ウォールアートをすることで何が実現できそうか話し合い、計画を立てる。 2 日枝のまちの課題やまちの人の思いや願いを知るために調査や取材をする。 3 日枝のまちの人と交流が生まれるようなウォールアートを制作する。 4 完成したウォールアートを協力してくださった地域の方やプロの方に披露し、活動を振り返る。
参考資料 準備品 実施場所等	ipad 水性ペンキ アクリル板 筆 等 学校、学区内外地域、地下鉄吉野町駅 等

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ※別紙 学習指導案参照 </div>		

<留意点>

1 単元の構想

(1) 子どもの実態と単元の立ち上げ

【子どもの実態】

昨年度までの学びの中心で、自分のちの多くを、
 目標を現すことができる、たは、るここと
 の人と関わりあうことが多かっ、た、あ、るここと
 今年度も、自分たちが、たは、るここと
 一歩前進したいと思っ、た、あ、るここと
 の壁を乗り越えたいと思っ、た、あ、るここと
 の壁を乗り越えたいと思っ、た、あ、るここと

【単元の立ち上げ】

今年度の活動を通して、自分たちが、
 一歩前進したいと思っ、た、あ、るここと
 の壁を乗り越えたいと思っ、た、あ、るここと
 の壁を乗り越えたいと思っ、た、あ、るここと
 の壁を乗り越えたいと思っ、た、あ、るここと

(2) 材について

【材の価値】

ウォールアートには、願いや思いを自
 由に表現することができ、見る人に癒し
 や元気などを届ける魅力がある。そし
 て、自分たちが施したアートが未来に
 ついていくことに責任をもつて「笑顔
 で、まちの人を「笑顔」にできた」共
 感を得ることとなるため、活動の場や
 識など、実現するた、あ、るここと
 り、工夫が必ず必要であること、
 ができる。さらに、アートのよさを
 の活性化に取り組み、まちへの思いや
 の人の日々な立ちまわりの温かさを
 存在を知り、日枝のまちの人と通
 も気付くこと、アートを創る楽しさ
 にウォールアートを創る楽しさを考
 味わうことができると考える。

【教師の願い】

もとのづくりの楽しさを味わうと
 に、まちの人と協働し、力を合わせ
 を通して、地域のまちを誇りにし、
 め、日枝のまちを誇りにし、
 分、の、で、ま、ち、の、よ、さ、を、
 な、っ、て、ほ、し、い。

(3) 単元目標

日枝のまちの魅力や人の温かさをウォールアートで伝える活動を通して、まちに
 対する思いや願い、まちが抱える課題、まちの人同士のつながりを大切にしている
 思いなどを知り、自分たちも地域の一人として育ってきた日枝のまちのよさを広め、
 まちがさらに活性化していくために自分たちにできることを考え、行動しようとする。

(4) 目標を実現するにふさわしい探究課題

日枝のまちを支え、活性化させていく意義とそれを支える人々の思いや願い

(5) 単元で育てたい資質・能力

知識及び技能	①自分たちが暮らすまちには、人々のつながりが希薄化しているという課題があり、まちの活性化のために努力されている人がまちにいることや、その方々が思いや願いをもつて取り組んでいることを理解する。 ②ウォールアートをまちの人とともに創る活動を通して、様々な見方、考え方、多様な関わり方を認めたり、公共的な場所を意識して責任をもつて取り組む意義に気付いたりする。
思考力、判断力、表現力等	①「まちの人と交流が生まれるウォールアートにしたい」という目的の実現に向けて、地域社会の様子や公共の場を使って制作することから発生する課題を見出し、解決の見通しをもつことができる。 ②まちの人の思いや魅力を効果的に伝えるために、まちの方々へのインタビューや専門家との関わりなど効率的な手段で情報を収集し、適切に蓄積したり活動を見直したりすることができる。
学ぶに向かう力、人間性等	①よりよいウォールアートを目指して表現する楽しさやまちの人と触れ合う喜びを感じ取り、自分や仲間のよさを生かしながら粘り強く追究しようとする。 ②地域の人の思いや願いが込められたウォールアートを製作することを通して、まちに役立つことができた自分に気づき、地域の一人として自分ができることを見つけ、今後もまちと関わっていこうとする。

(6)単元の展開と教師の手立て

総時間数 75時間 (国語 算数 社会 図工 特活 道徳と関連)



今年の仲間はどうなことを大切にしたい？

まちの人ともっと関わられる活動がしたい

まちの人と協力して、粘り強く取り組んで達成感を味わいたい。

この数年間、人との接触が減ってしまったけど、アートの方で、人が集まり、交流できる場になると今注目されているらしい。詳しく調べてみたい



ウォールアートをする事で何が実現できそうか知りたい。4時間

- 様々なウォールアートを調べ、どんな絵や内容になっているか特徴を共有する。学①
- 学校内やまち探検、インターネットで調べた情報をロイロノートでいつでも共有し合えるようにする。
- ウォールアートをする事で何が実現できそうか話し合い、年間計画を立てる学①
- 昨年度までどのように実現してきたか振り返り、大まかな見通しがもてるようにする

日枝のまちの課題やまちの人の思いや願いを知りたい。

35時間 (他教科と関連・常時活)

日枝のまちの人と交流が生まれるようなウォールアートにしたい。

36時間 (他教科と関連・常時活動)

- 自分たち以外の人を知るために、まちの人、全校、保護者に取材する。思①知①
- 知りたいことが具体的に把握できるようにするためにインタビューやアンケート内容を検討する。
- アートでまちづくりをしている専門家を取材し、思いや願いを知る。思①知①
- 事前に取材の目的や意図を伝え、今後の活動のきっかけになるよう、協力を依頼しておく。
- 町内会長さんに、ウォールアートを設置してよいかプレゼンするため、企画書をつくる。知①
- 自分たちが実現したい目標を確認し、企画書を作れるようにする。
- 町内会長さんにプレゼンする。
- 公共的な場であることを意識し、責任をもって取り組めるよう助言いただく。
- ウォールアートのデザインを考えるために「日枝のまちの魅力」「日枝のまちのイメージ」「こんなまちになってほしい」ことについてインタビューやアンケート調査をする。思②知②
- 自分たちを支えてくれている人の思いや存在に気付けるよう、身近な人を中心に取材し、語ってもらえるようにする。
- インタビューやアンケートを読んで整理し、分析する。思①知①
- 内容の分析を手がかりに、どのように表現すると思いや願いが伝わるのか考えられるようにする。

- ウォールアートの意味や良さについて考える。思①知①
- その場所に合った絵、見る人に届けたいメッセージがウォールアートに描かれていることをおさえる。
- 学校内の壁(収納扉)に描いてよいか校長先生に提案する。思①
- 活動にかかる予算について事務の先生に相談、提案する。
- 未来に残るものであるため、しっかり許可をもらい、見通しを立て責任をもって取り組めるよう助言いただく。
- 試作品を全校に見てもらい、アンケート調査をする。学①
- その場所を利用する人や学校に関わる方々の思いを知る必要性に気付けるようにする。
- アンケート結果を分析し、デザインを決め、壁にアートを施す。思②知②
- 材料や道具を大切に扱い、協力して取り組めるようにする。
- まちに設置するウォールアート制作に向けてアートでまちの活性化に取り組む方に取材する。思②知②
- 取材でわかったことをデザイン案につなげられるようにする。
- まちに設置するウォールアートのデザインを考え、試作品を作る。
- 地域の方や保護者、学校の人、プロに見てもらい、アドバイスをもらう。思②
- 様々な立場の人の意見をもとに決定できるようにする。
- 完成したウォールアートを協力してくださった地域の方やプロの方、先生方に見てもらい、会を開く。思②知②
- 協力があつたからこそ完成できたことに気付けるようにする。
- PR 宣伝、紹介をする。思②知②



○学びを振り返る。

思②知②



■協力して粘り強く取り組めたからこそ形になった喜びを価値づけ、今後の生き方につなげられるようにする。

② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立日枝小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
4	教室 地域	<p>「ウォールアートをすることで何が実現できそうか知りたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校内や地域などにある様々なウォールアートを調べ、特徴について共有する。 ・ウォールアートをすることで何が実現できそうか話し合い、年間計画を立てる。 	 	<p>普段はあまり意識していなかった場所にアートを発見し、どんな意味や効果があるのか考えている様子が見られた。また、まちにもたくさんのアートを発見していた。</p>
20	学校 地域	<p>「学校のみんなが明るい気持ちになれるウォールアートを制作したい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォールアートの意味や良さについて考える。 ・まちの人や全校児童、保護者に取材を行う。 ・アートでまちづくりをしている専門家を取材し、思いや願いを知る。 ・絵に込めたい意味を考えて試作品をつくり、アンケートを行う。 ・学校内のウォールアートを制作する。 	  <p>描く場所に試作品をプロジェクターで写し、アンケート調査を行った。その後アンケート内容を分析し、描く絵を決め、制作した。</p> 	<p>まち探検をして、アートのある場所の雰囲気を感じたことをもとに、実際に描く場所にどのような絵を描くとよいか、真剣に考える様子が見られた。また、自分たちの思いだけでなく、そこを通る人の意見を聞くことも必要と考え、工夫してアンケート調査を行っていた。そして、アンケート調査をもとに、協力して絵を描いた。</p>

15	学校 地域	<p>「日枝のまちの課題やまちの人の思い・願いを知りたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートでまちづくりをしている専門家取材し、思いや願いを知る。 ・「まちの魅力」「まちのイメージ」「こんなまちになってほしいという願い」などをまちの人にインタビュー、アンケート調査を行う。 ・実現したい目標を伝える企画書をつくり、駅長さんに提案する。 	 	<p>シャッターにまちの絵が描かれている町内会館を訪れ、町内会長さんに話を聞いた。まちの人が感じている今と昔の変化や、まちへの思いや願い、まちの歴史などを聞いて、自分たちの活動でできることは何か考えていた。また、まちの人をアートでつないでいるアーティストの方とも出会い、お話を聞いた。さらにたくさんの人の意見も聞きたいという思いにつながっていた。</p>
20	学校 地域	<p>「日枝のまちの人と交流が生まれるようなウォールアートにしたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に絵を描く活動を振り返り、まちに描くときに大切にしたいことについて考える。 ・試作品をまちの人に見てもらう。 ・自分たちとまちの人の思いや願いを込めたウォールアートを制作する。 	  	<p>まちの人へのインタビューやアンケート調査を行ったことで、よりたくさんのまちの人の思いを絵の意味に取り入れたいと気持ちが高まっていた。表現の仕方など、試行錯誤を繰り返しながら、制作した。プロのアーティストさんにも助言をもらい、絵を完成させることができた。</p>
4	地域	<p>「まちのたくさんの人にウォールアートを見ても</p>		<p>まちのイベントに参加し、今までの自分たち</p>

		<p>らいたい。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちのイベントで完成したウォールアートを紹介する。 ・駅にウォールアート作品を掲出し、たくさんの人に見てもらえるようにする。 ・お世話になった地域の方々やアーティストの方、駅長さんなど協力していただいた方々に自分たちの学びについて伝える。 	 	<p>の活動や絵に込めた意味などを発表し、まちの人の反応を感じることができた。そして、多くの方々の協力があり、駅の壁に2枚のウォールアートの掲出を実現することができ、達成感を得ていた。今後まちの人のどのような反応があるのか、楽しみにしている様子も見られた。</p>
--	--	--	---	--

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その場所に行って本物を見ること。 ・たくさんの人と関わりながら自分たちのまちを見つめ、改めてまちのよさを実感できるようにすること。 ・子どもたち自身で予算計画を立て、発注などを行ったこと。自分たちの目標の実現に、本当に必要なものは何かについて真剣に話し合ったり、提案したりすることができた。 ・日枝のまちをよく知り、まちの人とアートでつながっているプロのアーティストと関わったこと。表現技術が高まるだけでなく、まちの人との関わり大切さやウォールアートの意味などについて深く学ぶことができた。
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こだわりぬいて完成させたことはよかったが、制作時間の確保が難しく、年度最後までかかった。 ・ウォールアートの掲出場所が決定するまで、たくさんの方とつながり、ご協力いただいた。
<p>(3) 児童の反応</p> <p>学級目標である「一石七鳥」、「挑戦」「笑顔」「協力」「信じ合う」「関わる」「本気度をだす」「達成感」を実現させるために、取り組んできた子どもたちは、ウォールアートの活動を通して大きく5つのことを実感していた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①絵にこめた思いを伝えることができる。 ②その場所が明るいふんいきになる。 ③絵をかいているときも、絵を見てもらうときもコミュニケーションが増える。 ④描く場所によって様々なアートになり、描く場所によって意味が変わる。

⑤人によって捉え方が違う・楽しみ方が違う。意味が人によって違うから楽しい。

そして、ウォールアートの活動ではたくさんの方々とつながり、協力していただき、そのおかげで自分たちが表現したいウォールアートを完成させることができたことに、達成感を得ていた。

描いた絵の一つは、吉野町駅の電車をメインに、周りの花は優しさや誇り、強い個性という意味を込め、昔さかんだった染物に使った色水が流れてきている大岡川をイメージした線路も注目ポイントにした。もう一つの絵は、花やシャボン玉に「優しさやまた会う日を楽しみに」などの意味を込め、真ん中の時計は昔のふんいきを取り入れてほしいというまちの人の意見から今と昔を混ぜ合わせていて、周りを囲む花の花言葉にもメッセージがある。

このように、まちの中のアートに着目してまちを歩いたり、たくさんの人と関わったりしたことで、自分たちの思いだけでなく、まちの人の思いも取り入れて表現したいという気持ちが高まっていった。最後まで本気で向き合い、こだわりぬいて表現していた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

改めて、子どもたちとともに、日枝のまちの人の温かさを実感した一年間だった。この活動には、本当にたくさんの方々に協力していただくことができた。活動の話合い場面では、「〇〇さんがこう話してたから。」と、直接会話をしたからこそその発言が多くあり、地域の人との関わりがあったからこそ、こうした子どもたちの姿につながっていたと感じている。

(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]

来年度も、自分たちの活動はなぜ実現できたのか、しっかりと振り返り、次の活動につなげられるようにしたい。そして、引き続き、人との関わりを大切に、自分たちにできることを真剣に考えていける子どもたちを育てていきたい。

今年度の活動はウォールアートの技術を高めるために行ったのではなく、ウォールアートを通してまちと関わることを大切にしてきた。これからも、子どもたちがどのようにまちと関わっていきたいか、願いを引き出しながら取り組んでいきたい。そしてまちに愛着のもてる子どもたちを育てていきたい。